

国語科 学習指導案

茨木市立三島小学校

1. 日 時 令和6年度 9月13日(金) 第5時限(13:50~14:35)

2. 場 所 第3学年1組・2組・3組 各教室

3. 学 年・組 第3学年1組(29名)・2組(29名)・3組(30名)

4. 単 元 名 表現に着目して読み、考えたことを伝え合おう(読むこと)

5. 教 材 名 「せっちゃくざいの今と昔」(東京書籍)

6. 単元目標

(1) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解できる。

[知識及び技能](2) ア

(2) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約できる。

[思考力、判断力、表現力等] C(1) ウ

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

7. 言語活動 「学校で使う文房具」を新一年生に紹介カードを書いておくらう

8. 教 材 観

本教材は、接着剤について説明した文章である。接着剤が身の回りのどのようなところに使われているのか、また、工場で作られている今の接着剤と、自然にある材料を使っている昔の接着剤とではどのような違いがあるのかなど、さまざまな観点から接着剤について知ることができる。子どもたち自身が興味を持ったことを紹介するためにだいたいの語や文を見つけて要約することに適した教材文である。

9. 児童観

子どもたちは2年時より言語活動に積極的に取り組める学習計画を設定してきた。2年時終わりには「お手紙」で学習した物語の「読みどころ」をもとに、自分たちのお気に入りの場面を友だちに紹介する活動を取り入れ、1年間の読みの力を存分に発揮している姿があった。3年時では1学期説明文「自然のかくし絵」に取り組んだ際、「事例はいくつあるのか」「筆者はどうしてこの順番で説明しているのだろう」と「問い」を立て、段落に書かれている内容を読み解きながらさまざまな解釈で話し合っていた。本教材に対しても初発の感想からでた自分なりのふしぎ（私の問い）をもちながら読んでいくことを設定した。「話し合うことは聞き合うこと」をコンセプトに「話し合いは聞く相手がいるからこそ成立することや、友だちが発表した際、「じゃあ今発表してくれたお友だちが言ったことを近くの人と確認してごらん」など、話すことと同時に「聞くこと」についての指導も行っている。このように「話し合うこと」が定着しつつある子どもたちは本教材では「要約」について学ぶ。ある程度の文字数のある文章から、「どんなことを伝えたいのか」を考えながら「相手に必要なことを落とさないように文字数を制限して書きあらわす」という学習の目的をもってコンパクトにまとめる力をつけていきたい。

10. 指導観

第1時は文章と出会うことを大事に、ていねいに読む時間とした。若干子どもたちにとってなじみのない「接着剤」にどれくらい興味を示すのかは未知数であるため、題名からどんなことが書かれているのかまとめていく。「せっちゃんぐざい」「今」「昔」の3つから、本文はどのようなことが書かれているのか読み広めていく。また本授業を行う前に、こちらからおさえておきたい言葉を先に意味調べを行ってから本文を通読する。子どもたちは難しい言葉（にかわ・ゼラチン・美術品など）を先に知っておくことで音読の際、にがて意識を少しさげて読み進めることができると考えられる。

第2時は「私の問い」を立てる。しかし、3年生の子どもたちが説明文を読んで問いを立てることは難しいことが予想されるため、初発の感想からでた「ふしぎ・ぎもん」をベースに「つけたい力」「言語活動をなしとげるため」の「問い」を4つ用意し、子どもたち自身が問いを選ぶ際、「なぜその問いにしたのか」の理由も書くことでより自分がこの教材を学ぶ中で解決していく問い（私の問い）になっていく。

第3・4時は筆者がどのような書き方で読み手を説得しようとしているのかを読み解く時間とする。説明文の文章構成図を書いていくと、題名では「今と昔」が並列に書かれているが、本文では「昔」のせっちゃんぐざいの説明が多いことに気づかせたい。このことから「筆者は今よりも昔のせっちゃんぐざいのよさを強く伝えたいのか」といった問いから、最後の11段落の筆者の主張と重ねて読む指導を行う。

第5時は教科書本文をもとに「要約文」を書くことを設定する。文章全体を筆者の主張を落とさずに書く要約ではなく、段落のまとまりから自分が興味をもって伝えたい点をおさえ、全体の意味からずれることなく書くことは子どもたちにとっても初めての経験であり、この単元の朝学時間に「担任の先生の夏休み日記」をコンパクトに書くことを通して、目的に応じて要約する力をつけていく。

第6時は本時とする。この時間では自分が選んだいくつかの資料（文房具が説明された文：教師作

成)から1つ選び、「新一年生を思い浮かべ、どんなことを伝えとうれしいかな」といった気持ちを大事にしながら要約文をカードとして書くための交流を行う。

第7・8時では単元を通してつけた力、筆者の書き表し方の工夫を生かして、「来年度入学予定の新1年生に学校で使う文房具の説明カード」を作成する。新1年生はまだ文字が読むことが難しいことを伝え、保育所、幼稚園等で読み聞かせしてもらえるように「伝えたいことを落とさず、短く」まとめることを目的とする。

11. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 C(ウ)	・自分の興味があるものに関する本や資料を活用ながら、粘り強く調べ、学習の見通しをもってカードを書こうとしている。

12. 単元の指導と評価計画(全9時間 本時 6/9)

時	学習内容	学習評価 (◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価)			
		知技	思判表	主体	評価規準・評価方法等
1	●「作品」に出会う【構造と内容の把握】 ●単元の見通しをもつ ・学習課題の確認(単元計画) ・活動モデル文の提示 ・言葉の学習(押さえておくべき言葉)	○	○		・行動観察 ・WS
2	●「私の問い」を立てる 【構造と内容の把握】 ・「私の問い」を立てる →自分の学習ゴールをイメージ(どんな力をつけるのか)して、それに見合う「問い」を立てる			○	・行動観察 ・WS
3 4	●全体をまとまりに分ける 【精査・解釈】【考えの形成】 ・各まとまりに書かれていることをまとめる ・毎回のふりかえり(国語のきろく)にその時	◎			考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解しようとしているかの確

	点での問いの解決を書く				認。 【知・技】（行動観察・WS）
5	●要約文を書く① 【考えの形成】【共有】 ・「教科書」をもとに要約文を書く		○	○	・行動観察 ・WS
6 本時	●自分が選んだ紹介したい文房具カードの 作成準備			◎	・自分の興味があるものに関 する本や資料を活用なが ら、粘り強く調べ、学習の見 通しをもってカードを書こう としているのか確認。 【主】（行動観察・WS）
7 8	●すきな○○のしょうかいカードを書く ・自分の紹介したい文房具が書かれた文章 を選び、伝えたいことを落とさないように要約 する。 【考えの形成】【共有】		◎		目的を意識して、中心となる 語や文を見つけて要約しよ うとしているかの確認。 【思・判・表】 （行動観察・WS）
9	●単元テスト ・書いたカードは冊子にして教室で回覧		◎		目的を意識して、中心となる 語や文を見つけて要約しよ うとしているかの確認。 【思・判・表】 （行動観察・WS）

13. 本時の展開

(1) 本時の目標

・自分の興味がある文房具の説明書を活用ながら、自分がカードに書きたいことを友だちと伝え合おうとする。

(2) 本時の評価規準

・自分の興味がある文房具の説明書を活用ながら、自分がカードに書きたいことを友だちと伝え合おうとしている。【主】

(3) 本時の判断基準

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
・自分の興味がある文房具の説明書を活用ながら、自分がカードに書きたいことを粘り強く友	・文房具の説明書に書いてある文房具の中で好きなランキングをきめ、その中で一番のお気に入り

だちと伝え合おうとしている。【主】	りを選ぶように促す。【主】
-------------------	---------------

(4) 本時の学習過程

(○指導に生かす評価・◎記録に残す評価)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5分	①本時のめあてをつかむ	・前時をふりかえり、本時の見通しをもつ	◎主体的に学習に取り組む態度（行動観察）
	おすすめの文房具紹介カードを作成しよう		
20分	②各自が選んだ説明文を要約する。 ・自分の選んだ説明文に「伝えたい」「大切」だと思ふところに線を引き、友だちと確認。 ・線を引いたところを伝えアドバイスをし合う。	・ほとんどの箇所が大事だと考える児童には「一番伝えたいこと」だけを入れるなど、コンパクトにまとめることを促す。 ・今までの要約文を参考に書いていく。	
15分	③線を引いたところを自分の言葉で繋げて、要約文を完成させる。 ・完成させた要約文を友だちと確認	・友だちと自分の同じところ、ちがうところを見つける。	
5分	ふりかえりを「国語の記録」として書く。 ・クラス全体で共有	・次時の見通しを伝える。	

きょうみを持ったことをしようかいしよう 「おうちやぐわくの会」

【つきたい力】

・文章を読んで、目的を意識して、大事な言葉や文を読む人にわかりやすいようにまとめる力（要約の力）をつけます。

【そのために】

・大事な言葉、伝えたいことを短くするだけでなく、ちがう言葉をつかったり、書きかえたりして、わかりやすい文章にします。

【言語活動（げんごかつどう）】

・来年度入学する1年生に「学校で使う文房具」紹介カードを作成し、体験入学の時に体育館いっぱいに掲示しよう！

⑨		○評価テスト
⑧ ⑦	/	○紹介カードを完成させる ・例「でんぷんのり」でカードを作成しよう ・自分の選んだ文房具でカードを作成しよう
⑥	/ /	○自分の紹介したい文の作成準備 ・どの文房具を紹介したいのか ・紹介したい文房具が書かれた文章を読む ・書かれている文章の分析 ・どこを伝えるのか
⑤		○要約文を書く① ・教科書をもとに書く
④ ③	/ /	○書かれている内容をつかむ ・はじめ なか おわり にわかる ・なかはどんな工夫で書かれているのか
②	/	○私の問いを立てる ・まとめるためには ・1年生に伝えるためには
①	/	○文章と出会う ・読む ・学習の計画 ・モデル文 ・だいたいの内容をつかむ ・みんなに聞きたいこと

毎時のふりかえりで「私の問い」について自分なりの解決を書く たくさんの説明文にふれ、要約する機会の設定

せつちやくざいの今と昔

三年組 番名前（

④ えらんだ「文ぼう具」についてわかりやすく要約しよう。(えんぴつ)

えんぴつは、手で持つ部分は木、書く部分のしんは「こくえん」というまっくろの粉をねんどにまぜて焼いてかためたものからできています。使う時はえんぴつけずりでけずって、黒いしんをとがらせます。えんぴつは、ノートに文字を書いたずり、画用紙に絵をかいたりするときに使われます。文字を書くときは黒いえんぴつですが、赤や青などの色えんぴつもあります。色えんぴつのしんは「こくえん」と「ねんど」を使いません。色のもとになる「がんりょう」やろうそくの「ろう」をまぜて、すりつぶし、形をととのえて、色えんぴつになっていきます。

[illegible]

国語の記ろく

--	--	--	--	--	--

せつちやくざいの今と昔

三年組 番名前(

④「文ぼう具」についてわかりやすく要約しよう。

でんぷんのりはとうもろこしや、タピオカなどの植物を原料にした「でんぷん」というさとうの仲間を、火にかけてとかしたり、かわかしたりしながら作ります。使うときにはふたをあけて、ひつような量を指につけて、くっつけたいところにぬりつけるように使い、使わないときにはふたをしておきます。のりは、紙と紙をくっつけることができますので、図工などの工作の時間や、ノートにプリントをはるとき、手紙を入れたふうとうを閉じるときによく使われます。ここでしようかいしたでんぷんのりは、どろっとしていますが、スティックのりという手がよごれないのりもあります。でんぷんのりのほうがくっつく力が強いのがとくちょうです。

国語の記ろく

[illegible]

--	--	--	--	--	--

せつちやくざいの今と昔

三年組 番名前（

④ えらんだ「文ぼう具」についてわかりやすく要約しよう。(こむぎねんど)

ねんどには「こむぎこねんど」というねんどがあります。こむぎこねんどはボールに小麦粉と水、油、塩をまぜて作るので、まちがって口の中に入れてもだいじょうぶです。こむぎこねんどを使うときは、よくこねて、自分の好きな形にして使います。小さな子ども達が工作をする時に使われます。色をつけたいときは、絵の具を使うとききれいな色になるので、まぜるとよいですが、口の中に入れるとたいへんなことになるので、あまりおすすめしません。色をつけたいときは「食用色素（しよくようしきそ）」をいう食べても安全な粉（こな）をまぜてつかいます。

[illegible]

国語の記ろく

--	--	--	--	--	--

例 学校で使う文ぼう具「でんぷんのり」

でんぷんのりはとうもろこしや、タピオカなどの植物を原料にした「でんぷん」という食べることもできる、さとうの仲間を、火にかけてとかしたり、かわかしたりしながら作ります。使うときにはふたをあけて、ひつような量を指につけて、くっつけたいところにぬりつけるように使い、使わないときにはふたをしておきます。のりは、紙と紙をくっつけることができるので、図工などの工作の時間や、ノートにプリントをはるとき、手紙を入れたふうとうを閉じるときによく使われます。ここでしようかいしたでんぷんのりは、どろっとしています。スティックのりという手がよごれないのりもあります。でんぷんのりのほうがくっつく力が強いのがとくちょうです。293文字

要約 A

でんぷんのりはでんぷんというさとうの仲間から作られています。紙と紙をくっつけるために使います。でんぷんのりはどろっとしていて、スティックのりは手がよごれません。80文字

要約 B

でんぷんのりはでんぷんという植物から作ったのりです。使う時にはひつような量をゆびにつけてくっつける場所にぬります。でんぷんのりはくっつく力が強いのがとくちょうです。82文字

要約 C

でんぷんのりは「でんぷん」という植物からできた、どろっとしたのりです。工作などで使うときに、ひつようなりをゆびにつけてくっつけたいところにぬります。スティックのりはてがよごれませんが、でんぷんのりはくっつく力が強いのがとくちょうです。118文字

① 学校で使う文ぼう具「けしごむ」

けしごむは、けしごむのやわらかさを出すために使う特別な材料と、プラスチックをきかいてまぜて作ります。使うときには書いた文字や絵にけしごむをあて、何度もこするようにします。けしごむは、えんぴつで書いたものを消すときに使われます。どんなものでも消せるのではなく、ペンや絵の具でかいたものは消すことができません。赤えんぴつで書いたものも消しにくいです。また、長細いものや、とがったもののひらくくらい大きなものなど、使い方に合わせた形のけしごむもあります。けしごむは白色がきほんの色ですが、赤や青などの色をまぜただカラフルなけしごむや、とうめいなものもあります。278文字

② 学校でつかう文ぼう具「えんぴつ」

えんぴつは、手で持つ部分は木、書く部分のしんは「こくえん」というまっくろの粉をねんどにまぜて焼いてかためたものからできています。使う時はえんぴつけずりでけずって、黒いしんをとがらせます。えんぴつは、ノートに文字を書いたり、画用紙に絵をかいたりするときに使われます。文字を書くときは黒いえんぴつですが、赤や青などの色えんぴつもあります。色えんぴつのしんは「こくえん」と「ねんど」を使いまえん。色のもとになる「がんりょう」やろうそくの「ろう」をまぜて、すりつぶし、形をととのえて、色えんぴつになっていきます。251文字

③ 学校でつかう文ぼう具「こむぎこねんど」

ねんどには「こむぎこねんど」というねんどがあります。こむぎこねんどはボールに小麦粉と水、油、塩をまぜて作るので、まちがって口の中に入れてもだいじょうぶです。こむぎこねんどを使うときは、よくこねて、自分の好きな形にして使います。小さな子ども達が工作をする時に使われます。色をつけたいときは、絵の具を使うとききれいな色になるので、まぜるとよいですが、口の中に入れるとたいへんなことになるので、あまりおすすめしません。色をつけたいときは「食用色素（しょくようしきそ）」をいう食べても安全な粉（こな）をまぜてつかいます。230文字

年	組	名前
2019	1	山田 太郎
2019	2	山田 太郎
2019	3	山田 太郎
2019	4	山田 太郎
2019	5	山田 太郎
2019	6	山田 太郎
2019	7	山田 太郎
2019	8	山田 太郎
2019	9	山田 太郎
2019	10	山田 太郎
2019	11	山田 太郎
2019	12	山田 太郎
2019	13	山田 太郎
2019	14	山田 太郎
2019	15	山田 太郎
2019	16	山田 太郎
2019	17	山田 太郎
2019	18	山田 太郎
2019	19	山田 太郎
2019	20	山田 太郎
2019	21	山田 太郎
2019	22	山田 太郎
2019	23	山田 太郎
2019	24	山田 太郎
2019	25	山田 太郎
2019	26	山田 太郎
2019	27	山田 太郎
2019	28	山田 太郎
2019	29	山田 太郎
2019	30	山田 太郎
2019	31	山田 太郎
2019	32	山田 太郎
2019	33	山田 太郎
2019	34	山田 太郎
2019	35	山田 太郎
2019	36	山田 太郎
2019	37	山田 太郎
2019	38	山田 太郎
2019	39	山田 太郎
2019	40	山田 太郎
2019	41	山田 太郎
2019	42	山田 太郎
2019	43	山田 太郎
2019	44	山田 太郎
2019	45	山田 太郎
2019	46	山田 太郎
2019	47	山田 太郎
2019	48	山田 太郎
2019	49	山田 太郎
2019	50	山田 太郎
2019	51	山田 太郎
2019	52	山田 太郎
2019	53	山田 太郎
2019	54	山田 太郎
2019	55	山田 太郎
2019	56	山田 太郎
2019	57	山田 太郎
2019	58	山田 太郎
2019	59	山田 太郎
2019	60	山田 太郎
2019	61	山田 太郎
2019	62	山田 太郎
2019	63	山田 太郎
2019	64	山田 太郎
2019	65	山田 太郎
2019	66	山田 太郎
2019	67	山田 太郎
2019	68	山田 太郎
2019	69	山田 太郎
2019	70	山田 太郎
2019	71	山田 太郎
2019	72	山田 太郎
2019	73	山田 太郎
2019	74	山田 太郎
2019	75	山田 太郎
2019	76	山田 太郎
2019	77	山田 太郎
2019	78	山田 太郎
2019	79	山田 太郎
2019	80	山田 太郎
2019	81	山田 太郎
2019	82	山田 太郎
2019	83	山田 太郎
2019	84	山田 太郎
2019	85	山田 太郎
2019	86	山田 太郎
2019	87	山田 太郎
2019	88	山田 太郎
2019	89	山田 太郎
2019	90	山田 太郎
2019	91	山田 太郎
2019	92	山田 太郎
2019	93	山田 太郎
2019	94	山田 太郎
2019	95	山田 太郎
2019	96	山田 太郎
2019	97	山田 太郎
2019	98	山田 太郎
2019	99	山田 太郎
2019	100	山田 太郎

--

[illegible]